

人間の尊厳と私たちの仕事を問う

日時： 2017年1月28日（土） 午後1時～5時

場所： 木津川市 加茂文化センター（あじさいホール）

私たち障害児・者福祉施設で仕事をしている者にとって、今年7月に起きた「相模原やまゆり事件」ほど衝撃を受けた出来事はありませんでした。

「格差社会容認」、「勝ち組・負け組」、「出生前診断」、某県の教育委員の「障害児の数は減らせたらいいい発言」、「ヘイトスピーチ・クライム」など…今、人間を価値で計ろうとし、「差別はあって当たり前」とする考え方が「社会の本音」として意識の底流にあるような気がしてなりません。

「価値」は時代や社会や個人の価値観などによって高くなったり、低くなったり、増えたり減ったりします。しかし、障害者福祉の仕事に関わる私たちが問わなければならないものは、環境や他者の都合によって増えたり減ったりするものではなく、もっと普遍的なものです。

障害児・者福祉の現場には差別や虐待問題、犯罪被害や触法障害者問題、強度行動障害や医療的ケアが必要な方々への支援などの課題があります。そういった様々な問題をこえた共通するテーマをこの研修会で深められたらうれしく思います。

12:30 受付開始

参加費：1000円

13:00 開会あいさつ・オリエンテーション

（当日お支払い下さい。）

13:10 児玉 真美 氏 講演会

「事件が起こる前に「すでに」起こっていたこと」

14:40 休憩（グループワーク会場への移動含む）

14:55 グループにわかれて意見交換

「人間の尊厳とは～自分たちの仕事と重ねて…」

15:55 休憩（講演会場：ホールへの移動含む）

16:05 意見交換報告会（報告者による発表） 助言：児玉 真美氏

報告者：平田 義（京都市南部障がい者地域生活支援センターあいりん所長）

井山 信久（有限会社 ライフアシスト 代表）

須河 浩一、土井 知恵（社会福祉法人 いづみ福祉会）

16:50 閉会あいさつ

【講師紹介】 児玉 真美氏

1956年生まれ。京都大学文学部卒。カンザス大学教育学部でマスター・オブ・アーツ取得。

2006年7月より月刊「介護保険情報」に「世界の介護と医療の情報を読む」を連載中。

2007年5月よりブログ「Ashley事件から生命倫理を考える」を開設。

著書に『私は私らしい障害児の親でいい』（ぶどう社・1998）、『アシュリー事件～メディカルコントロールと新・優生思想の時代』（生活書院・2011）、『新版 海のいる風景』（生活書院・2012）。

* 終了後、懇親会を開催します！ ぜひご参加下さい。* 参加費：未定（4000円程度）

18:30～ 「魚民」新祝園せいかガーデンシティ店Tel0774-95-6388（JR 祝園、近鉄新祝園駅近く）

主催：社会福祉法人 いづみ福祉会 共催：有限会社 ライフ・アシスト

お申し込み・お問い合わせ：社会福祉法人 いづみ福祉会 事業部（担当：土井）

電話：0774-76-7210、FAX：0774-76-0070、メール：soumu@idumi-fukushikai.or.jp

↓
うり面に用紙があります。

参加ご希望の方は、以下のFAX用紙もしくは、下記メールアドレスにて
お申込みいただきますようお願い申し上げます。

メールアドレス

soumu@idumi-fukushikai.or.jp

FAX送信表

0774-76-0070 いづみ福祉会総務部宛て

お名前	所属・経験年数	連絡先	懇親会申込み

問い合わせ・連絡先 京都府木津川市加茂町観音寺石部 8 番地
社会福祉法人 いづみ福祉会
☎0774-76-7210 担当 須河・土井